



資源と環境の教育を考える会『エコが見える学校』
関東学院大学非常勤講師
三信化工株式会社

海老原誠治

えびはら せいじ

佐賀大学物理学科卒業、佐賀県立有田窯業大学校・
常勤講師を経る。

歩む、保護者との共創

想定外？ 和食配膳

「やり遂げた感？ そりゃありますよ」。

ゴザや和食器を使い展開する和食給食、実施には教職員だけでは困難な場合もあります。そんな時、保護者の力を借りし、実現する事例が増えました。冒頭のコメントは、取り組みに携わった後の保護者の感想です。

配膳から片付けまで、家庭と勝手が違う大人数への対応は、保護者にとって新鮮であるようです。特に和食の膳で、保護者も一緒に喫食するという、学校も保護者も初の取り組み、最後まで気が抜けません。今回は東京都日野市立東光寺小学校と千葉県船橋市立三山東小学校での事例から、関係者の視点と感想を聞いてみました。

保護者の視点

Q. 参加した動機は？

「今まで給食と一緒に食べる機会はなく、様子を知りたかった」「自分自身、和食の配膳やマナーに興味があった」「自分の子どもや、ほかの子どもたちが、どのように食べているのか気になった」

Q. 参加しての感想は？

「実際、等分に分けながらの給食の配膳が想像以上に大変で、毎日子どもたちが対

応できていることはすごい」「指導の様子や、子どもの態度がわかった」「一汁三菜や正座、ゴザのい草の匂いなど、まれな経験ができた」「器一つで喜ぶ子どもたちを知れた」「保護者が協力を惜しまぬ姿は無言で示すべき」「限りある時間での配膳に、途中間に合うのか正直焦ってしまった」

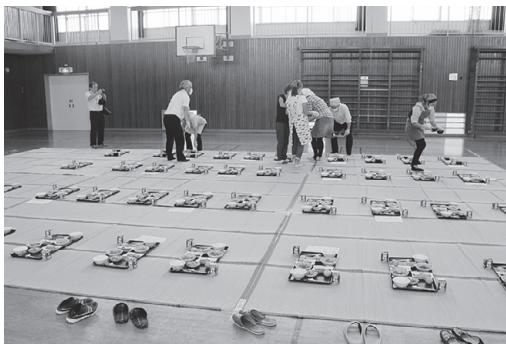
初の試みではありましたが、保護者が果たした役割と得た価値は想像より大きいようです。給食について、献立表や試食会などである程度は把握できいても、実際に配膳から喫食までを通して参加すると、和食給食に限定せず、配分一つからも給食指導を実感いただけたようです。

2日間にわたり、ランチルームを使って行われた和食給食（約70食）には、計5名の保護者が参加。配分を考えながら和食器におかずを盛り、黒盆の上にセッティングしていく（日野市立東光寺小学校）





体育館にゴザを敷いての和食給食（約90食）には6名の保護者が参加。数を確認しながら慎重に準備を進める（船橋市立三山東小学校）



「家庭まで届く食育」

篠崎典子先生（東光寺小学校、学校栄養職員）と細谷裕子先生（三山東小学校、栄養教諭）からは次のコメントをいただきました。

「栄養だけでなく、味つけから量の計算・

配膳指導まで、食育現場の様子を体感してもらうのは大きな価値です」「家庭にまで届く食育を実現するためにも、普段から行っている指導を肌で感じ、持ち帰って継続してほしい」「保護者に参加していただくことで、初めて和食給食を実現できた。連携することで成り立つ食育から、つながりを強くしたい」「給食だよりで多くのことを発信するが、現場を知り実感することで、より多くのことを伝えたい」

食育を学校内に留めず、家庭まで伝えることが、これに取り組む価値のようです。

保護者対象に実施した調査では、「和食文化を伝えられるのは、誰だと思いますか？」との問い合わせに、学校でも行政でもなく8割以上が「家庭」との回答を得ています。これを踏まえても、保護者と連携する食育、子どもたちだけでなく、保護者や教職員へも新たな価値を共創できそうです。

※『いただきます.info』食育の情報発信開始！
<http://itadakimasu.info>

知りたい！ うつわと食のミニ知識

瀬戸物ってな～に？

東京のJR神田駅、南口を出て東を望むと交差点の名は「今川橋」。本来はそこから100mほど南にあった水路「八丁堀」にありましたが今では失われ、水路が埋め立てられた路地と、碑・由来書きが残るのみです。

古い街では今でもまれに「瀬戸物」屋を見ます。この言葉は主に近畿から東日本での陶磁器の呼び名で、中国・四国より西では唐津物と、産地に由来し呼ばれること。愛知県瀬戸地区産の陶磁器は、生産量の多さと当時の宣伝効果により、瀬戸物は陶磁器の代名詞ともなりました。江戸名所図会（1834）にはかつての今川橋が描かれています。大きな瓶が並んだ商店に「此辺瀬戸物屋多し」の記載からも、その様子が伝わります。

▶かつて水路と今川橋があった跡地



▼江戸時代の今川橋、瀬戸物屋の様子
 (江戸名所図会、1834)

